3　発達に関する心理学

(1)　発達心理学

人がさまざまな経験をしながら心身を発達させる過程に注目したものを「発達心理学」という。発達心理学では、人生を段階に分けて整理し、各段階に特有の課題があると捉える。そこには、心理的なものに限らず、身体的な支障や社会的な問題等も含まれる。このように、人生を段階に分けその特徴を整理したものを**「ライフサイクル（人生周期）」**という。

Point▶クライアントの心の問題に触れる際、そのクライアントがライフサイクルのどの段階にいるかを考慮する視点も持つことが求められます。心の問題とライフサイクルは関わり合いが深く、発達心理学の知識を持って対応すると問題解決の糸口を見つけやすくなります。

人間の身体的能力や性格、発達は遺伝による「生得的」なものなのか、主に環境因による「後天的」なものなのか、さまざまに議論されてきた。どちらが正しいというわけではなく、両方の視点を取り入れることが欠かせない。

［成熟説と環境説］

		輻輳説	相互作用説
成熟説（生得的） 木の成長でいう「種」 環境説（後天的） 「土」や「肥料」	Gesell, A. 遺伝的に持って生まれたものである。 Watson, J. B. 環境と経験の影響が大きい。	Stern, W. 遺伝と環境どちらか一つではなく、遺伝に加え環境の影響も受ける。 （遺伝＋環境）	Jensen, A. R. 遺伝要因と環境要因が双方に影響し合う。 （遺伝⇔環境）

⑵　発達理論

（ア）乳幼児期に見られる発達

新生児、乳児の早期には、**原始反射**という反射運動が見られる。反射は、脊髄や脳幹によってコントロールされた無意識の筋肉運動であり、赤ちゃんは生きていくためにこの原始反射を備えていると考えられている。これらは脳の発達に伴い自然と消失していく。

［原始反射の種類］

消失時期	名前	内容
生後３か月	陽性支持反応（起立反射）	自力で立つことのできない乳児でも、支えて立たせようとすると下肢に力が入り立とうとする反射
生後３～４か月	モロー反射	外からの音や光、バランスの乱れなどの刺激に対して、手足を広げたりしがみついたりする反射
	バビンスキー反射	足の裏に優しく触れると、足の親指は反り、他の指は開く反射
	ダーウィン反射（把握反射）	手に優しくものを触れさせると握ろうとする反射
	口唇探索反射（探索反射）	唇の周りに優しく何かが触れると顔を向けて口を開く反射
生後４～５か月	吸啜反射	唇に触れたものは何でも吸おうとする反射